

◆授業設計のポイント◆

- ・ 音楽科の本質に迫る深い学びにおける生徒の姿の具体化
- ・ 思考を広げ深める手立ての工夫
- ・ 学習プロセスを見通し、振り返る活動の工夫

音楽科学習指導案

学 級 1年1組 41名（男子21名・女子20名）
場 所 第2音楽室（1年校舎4階）
授業者 教 諭 本 田 章 子

1 題材 パートの役割や、旋律の重なり方の違いを感じ取って合唱しよう

【形式・リズム・強弱・テクスチャ】

教材 「朝の風に」（安西 薫作詞／長谷部匡俊作曲）

2 題材について

(1) 題材設定の理由

本題材は、学習指導要領「第1学年A（1）ーア 音楽表現に関わる知識や技能を得たり生かしたりしながら、音楽表現を創意工夫すること。イ(ア) 曲想と音楽の構造や歌詞の内容との関わりについて理解すること。ウ(ア) 創意工夫を生かした表現で歌うために必要な発声、言葉の発音、身体の使い方などの技能を身に付けること。ウ(イ) 創意工夫を生かし、全体の響きや各声部の声などを聴きながら他者と合わせて歌う技能を身に付けること。」に関する内容である。

表現の活動では、曲想や表したいイメージと関わらせながら、音楽の構造、歌詞の内容、声や楽器の特徴、音階や言葉の特徴、反復などの構成上の特徴、音楽の背景などを理解すること、曲にふさわしい表現や構成を工夫することなどが大切である。これらの活動を支えるものとして〔共通事項〕が位置付けられる。〔共通事項〕は「A表現」領域、「B鑑賞」領域の両領域で内容の全体を構成している。

本題材では、この〔共通事項〕を生かしながら、生徒が感性を働かせて感じ取ったことを基に思考、判断し、表現する一連の過程を大切に学習の充実を図っていききたい。そのためには、リズムの反復や変化、旋律線のもつ方向性、旋律の重なり方を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じ取って、声部の役割や全体の響きを感じ取って、どのように歌うか思いや意図をもって音楽表現を工夫する学習を展開していくことが必要となってくる。また、音楽表現を創意工夫する際には、新たな知識や技能を習得することと、既に習得している知識や技能を活用することの両方が大切になるため、知識や技能を得たり生かしたりしながら、様々な表現を繰り返し試す場を多く設定する必要がある。対象学年は4月に入学したばかりの第1学年であり、小学校の音楽の学習の経験や、日頃の生活の音楽体験などを把握し、生徒の実態に応じた学習過程を工夫することで、生徒が音楽表現を創意工夫する楽しさや喜びを実感できるよう留意したい。グループ活動を適切に取り入れ、表現を工夫した演奏を披露したり、生徒同士の相互評価の場面を取り入れたりは、互いに考えが深まり、新たな発想につながっていくと予想される。このような活動を通して、自分たちの思いや意図を音楽で表現する楽しさを味わわせたいと考え、本題材を設定した。

本教材「朝の風に」は、7月に実施される本校音楽コンクールの1年生の課題曲である。この曲は、ハ長調、4分の4拍子、斉唱と混声二部合唱の組み合わせの曲である。曲の始めは、女声の主旋律から始まり、次に男声の主旋律が重なり、主旋律が男声へ移る。このような特徴を生かして、響きの違いを感じ取りながら混声二部合唱の導入をすることができる。また、声域は、1年生の前半時期に適切な音域であり、声の響きづくりも無理なく、歌いやすい旋律となっている。混声二部合唱に始めて取り組む一年生にとっては歌いやすい曲となっている。本教材は、男声と女声の掛け合いや美しい響きをつくり、基礎的な表現の技能を身に付けさせたり、形式や旋律の特徴を生かした強弱の変化や曲の盛り上がり気付き、表現を創意工夫させたりする活動を行うのにふさわしい曲である。

生徒一人一人が楽曲の表現について考え、グループ活動で互いに意見を出し合いながら表現の工夫をする場を設けることで、主体的な音楽活動が図られ、音楽表現の楽しさや豊かさを味わわせること

をねらいとして本題材を設定した。

- (2) 生徒の実態（アンケート対象：1年1組 男子21名 女子20名 計41名 回答）
今回の学習に取り組むに当たって、事前調査を実施した。

1 小学校の音楽の時間や、音楽の行事で印象に残っている活動を答えなさい。（複数回答可）

- | | | | |
|-----------|-----|---------------|----|
| ・ 卒業式 | 30名 | ・ 箏の演奏を鑑賞した | 1名 |
| ・ 市音楽発表会 | 18名 | ・ 朝の会の歌 | 1名 |
| ・ 合奏 | 8名 | ・ 半成人式 | 1名 |
| ・ 音楽劇 | 4名 | ・ キャンプファイヤーの歌 | 1名 |
| ・ リコーダー演奏 | 3名 | | |

2 合唱をするときに、どのようなことに気を付けて歌っていますか。（複数選択可）

- | | | | |
|-------|-----|----------------|-----|
| ・ 音程 | 25名 | ・ 他のパートとのハーモニー | 10名 |
| ・ 強弱 | 21名 | ・ 二部形式 | 9名 |
| ・ リズム | 19名 | ・ 歌詞の意味 | 6名 |
| ・ 曲の山 | 15名 | ・ 言葉の発音 | 2名 |
| ・ 速度 | 13名 | ・ 姿勢や発声法 | 2名 |

3 歌や楽器の演奏で、何を変化させたら曲の雰囲気を変化すると思いますか。（1つ選択）

- | | | | |
|------|-----|---------|----|
| ・ 強弱 | 17名 | ・ リズム | 3名 |
| ・ 音程 | 12名 | ・ ハーモニー | 2名 |
| ・ 速度 | 5名 | ・ 言葉の発音 | 2名 |

4 合唱の練習で頑張りたいことや、「～のようになりたい」と思っていることを答えなさい。

- | | |
|--|---------------|
| ・ きれいな声で歌いたい | ・ かすれた声をなくしたい |
| ・ 自分の音程に自信がないので、みんなの声に合うように歌いたい | |
| ・ 曲の感じに合った歌い方ができるようになりたい | |
| ・ 男声と女声の声が重なり合って、きれいなハーモニーにしたい | |
| ・ 低い声が出るようになりたい（男子） | |
| ・ 歌っていると、他の声につられてしまうので、音程を間違えないように歌いたい | |
| ・ 高い声のとき、弱くならないようにしたい | |

5 音楽の授業でグループ活動は好きですか。

- | | |
|-----------------|-----|
| ・ 「はい」 | 23名 |
| ・ どちらかと言えば「はい」 | 14名 |
| ・ どちらかと言えば「いいえ」 | 3名 |
| ・ 「いいえ」 | 1名 |

「はい」と答えた理由

- | | |
|------------------|----------------------------|
| ・ みんなで歌うと楽しいから | ・ グループごとでいろんな演奏があるから |
| ・ 他の人の意見が聞けるから | ・ グループで活動すると分からないところも分かるから |
| ・ 達成感があるから | ・ 自分たちで工夫して演奏できるから |
| ・ 一人で何かするのが苦手だから | |

「いいえ」と答えた理由

- | |
|--------------------------------|
| ・ みんなでやるのは楽しいけど、演奏を合わせるのが難しいから |
| ・ 自分の考えとは違う考えが出て、まとめるのが苦手だからから |

6 中学校の音楽の授業では、どのような活動を楽しみにしていますか。（3つ選択可）

- | | | | |
|-------------|-----|----------|----|
| ・ 合唱すること | 20名 | ・ 合奏すること | 8名 |
| ・ 音楽を鑑賞すること | 19名 | ・ 作曲すること | 1名 |
| ・ 楽器を演奏すること | 16名 | | |
| ・ 歌うこと | 15名 | | |

アンケートの結果から、生徒は小学校の音楽の時間や学校行事等で様々な体験をしており、仲間との合唱や合奏の活動がとても印象深いことが分かった。また、音程や強弱、リズムなどに気を付けながら、周りの音に合わせて演奏することの大切さを実感しているようである。曲の雰囲気においては、音の高さや強弱、速度を変えることによって変化することを理解していることが分かる。また、合唱の練習では音程が取りにくかったり、苦手な声域になると、声を出すことが不安になるようである。しかし、発声や発音、身体の使い方などに気を付けながら歌を歌い、声を出す不安を解消するまでには至っていないことがアンケートの結果で分かった。本題材では、旋律の特徴を生かしながら、思いや意図をもって音楽表現を工夫する活動を充実させたいと考えている。中学校で初めての混声二部合唱に取り組むことから、発声、言葉の発音、身体の使い方などを意識しながら、それぞれの声の響きを生かしてどのように表現を工夫するか、旋律の特徴を強弱と関わらせてどのように表現するかを話し合う活動を取り入れたい。また、歌を歌いながら試行錯誤し、多様な表現の工夫に取り組みせたい。グループ活動に対しては、とても前向きな意見が多く、小学校の学習活動で、仲間と意見を出し合いながら取り組む楽しさを体験していたことが分かる。しかし、少数ではあるが、グループ活動は意見がまとまらないと思い、苦手だと感じている生徒や、周りの生徒と演奏を合わせるのが難しいと感じている生徒がいることに留意しなければならない。個々の能力や習熟度に応じてよりよい表現の方法を見出して歌ったり、演奏したりすることが音楽表現の工夫となる。表現したい思いや意図をもち、どのように表現したらよいかを仲間と話し合ったり、互いに意見を認め合いながら音楽を形づくっている要素の働かせ方を試したりする活動をより充実させていきたい。

3 題材の目標

- (1) 音楽を形づくっている要素及びそれらに関わる用語や記号について、音楽における働きと関わらせて理解し、創意工夫を生かした表現で他者と合わせて歌唱することができる。(ア 知識及び技能)
- (2) 音楽を形づくっている要素の働かせ方などを試行錯誤しながら、表したい音楽表現について考え、どのように音楽表現するかについて思いや意図をもっている。(イ 思考力,判断力,表現力等)
- (3) 音楽表現に対する思いや意図などを互いに伝え合い共感するなど、他者とともに創意工夫しながら表現する活動に主体的に取り組んでいる。(ウ 主体的に学習に取り組む態度)

4 題材における評価規準

知識及び技能	思考力, 判断力, 表現力等	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> ○ 曲想や歌詞の内容を感じ取り、〔共通事項〕の働きと関わらせて音楽表現できる。〔(1)ーイ(ア)〕 ○ 発声、言葉の発音、身体の使い方を生かして歌うことができる。〔(1)ーウ(ア)〕 ○ 他の声部の声や全体の響きを聴きながら他者と合わせて歌うことができる。〔(1)ーウ(イ)〕 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 〔共通事項〕の働かせ方などを試行錯誤し、どのように音楽表現するかについて思いや意図をもっている。〔(1)ーア〕 ○ 音楽表現に関わる知識や技能を得たり生かしたりしながら、歌唱表現を創意工夫することができる。〔(1)ーア〕 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 互いに気付いたことを共有し、感じ取ったことなどに共感しながら、他者とともに創意工夫する表現活動に主体的に取り組んでいる。

5 指導計画(全3時間)・〔単位時間における評価規準〕

時間	主な学習活動	単位時間における評価規準		
		ア 知識及び技能	イ 思考力, 判断力, 表現力等	ウ 主体的に学習に取り組む態度
1	<ol style="list-style-type: none"> 1 男声・女声に分かれて音取りをし、混声合唱が歌えるようになる。 2 合唱を録音する。 3 曲想と形式、歌詞の内容との関わりについて理解し、旋律の特徴を捉える。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 自分のパートの旋律の音程やリズムに気を付けながら、歌うことができる。 ・ 記号の名称や意味について理解している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 形式や旋律の特徴を生かして、音楽表現の工夫をどのようにするか思いや意図をもっている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 曲想や形式、旋律の特徴から感じ取ったことを生かして、主体的に表現しようとしている。

	4 「朝の風に」の表現の工夫の仕方を考える（個人）。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 曲想と形式，歌詞の内容との関わりについて理解している。 		
2 (本時)	<ol style="list-style-type: none"> 1 表現の工夫の仕方について話し合う（ペア）。 2 表現の工夫について広幅用紙にまとめ，練習する（グループ）。 3 各グループで表現の工夫と演奏を発表し合う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 話し合ったことに気を付けながら，他者と合わせて歌うことができる。 ・ 歌詞の意味や旋律の特徴を表現に生かすために必要な発声や発音の仕方，身体の使い方を身に付けている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 表したい音楽表現について，思いや意図をもって創意工夫しようとしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ グループで意見を出し合い，表現の工夫に主体的に取り組んでいる。 ・ 各グループの発表を聴き，本時で学んだ表現の工夫を次の時間に生かそうとしている。
3	<ol style="list-style-type: none"> 1 各グループの音楽表現を工夫したところの共通点や相違点を比較し，表現の仕方についてまとめる。 2 表現を工夫しながら合唱し，演奏を録音する。 3 録音した演奏を聴き，曲想に合った演奏になるよう改善点について意見を出し合い，練習する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 曲想に合った音楽表現の工夫の仕方について理解している。 ・ 創意工夫を生かし，全体の響きや他のパートの声を聴きながら他者と合わせて歌う技能を身に付けている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 音楽を形づくっている要素の働きなどを生かしながら，どのように音楽表現をするかについて思いや意図をもっている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 互いに気付いたことや感じ取ったことを共有し，表現を工夫しながら，合唱に主体的に取り組んでいる。

6 本時の実際（2/3）

- (1) 題材 パートの役割や，旋律の重なり方の違いを感じ取って合唱しよう
- (2) 目標 音楽を形づくっている要素の働きを生かして，音楽表現を創意工夫することができる。
- (3) 授業設計の工夫
 - ア 音楽科の本質に迫る深い学びにおける生徒の姿の具体化 研究の視点1
 - ・ 深い理解に至った生徒の姿とは，形式や強弱，旋律の特徴を生かして，どのように音楽表現を工夫していくかについて，思いや意図をもち，意欲的に表現活動に取り組んでいる姿のことである。
 - ・ 生徒の思考の流れ（気付き→納得→意志）を想定し，既習事項の活用や比較により，試行錯誤させることで，主体的・創造的な表現活動につなげさせる。
 - イ 思考を広げ深める手立ての工夫 研究の視点2
 - ・ 曲の音楽的な特徴について自分なりに感じ取ったことを自分の言葉で発表させ，話し合わせる。
 - ・ ペアやグループで話し合ったり，音や音楽で試したりしながら自分たちの思いや考えを深めさせ，主体的に音楽表現を工夫させる。
 - ウ 学習プロセスを見通し，振り返る活動の工夫 研究の視点3
 - ・ 学習プロセスを見通し，振り返る場面を設定し，学習評価表を活用させることで，学んだことの意味や価値を自覚させ，今後の学習への意欲につなげさせる。
- (4) 展開

過程	時間形態	主な学習活動	○指導上の留意点 ◎ 評価 ※ 授業設計の工夫
導入	5分一斉	<ol style="list-style-type: none"> 1 前時で録音した「朝の風に」の演奏を聴く。 2 本時の学習課題を確認する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> 旋律の特徴を生かして，音楽表現するにはどのような工夫が必要だろうか。 </div>	○ 前時の活動を振り返り，本時の学習への意欲を高める。 ※ 本時の課題と学習の流れについて提示し，学習の見通しをもつことができるようにする。 研究の視点3

展 開	5分 ペア	3 旋律の特徴を捉え、どのように表現を工夫するかについてペアで話し合う。	※ ペアで話し合うことによって、相手の考えの良さや共通点に気付き、個人の考えや思いが深まる。 ◎ 旋律の特徴を生かしながら、どのように表現を工夫するかについて話し合ったり、演奏したりすることに主体的に取り組もうとしている。
	17分 グループ	4 ペアで話し合ったことを参考にして、グループで意見をまとめ、工夫する点を楽譜に書き込む。 [気付き] P1: 主旋律はすこし強く歌おう。 P2: 旋律線に合わせて強弱を付けよう。 P3: 掛け合うところは互いに聴き合いながら歌おう。 P4: 三部形式のb・cの部分は、盛り上げよう。	※ 音楽表現の工夫するところを言葉で楽譜に表記するなど、話し合う場を設定する。 ◎ 楽譜に書かれている音楽記号や用語を理解し、活用しながら表現に生かそうとしている。 研究の視点1
開	18分 グループ	5 表現を工夫するところに気を付けながら、練習する。 6 各グループの演奏を発表する。 [納得] P1: b・cの旋律は強弱を生かして盛り上げると、曲にめりはりが出て、まとまった感じになる。 P2: お互いに聴き合いながら歌うと、リズムや響きがそろってくる。 P3: それぞれのグループで工夫していて、同じ曲でも違う感じの曲になる。	※ 互いの演奏を聴き合うことで、多様な音楽表現の工夫の仕方に気付き、今後の音楽表現において、創意工夫していこうとする意欲につなげる。 研究の視点2 ◎ 旋律の特徴を生かしながら、音楽を形づくっている要素を活用して表現を工夫することは、効果的な表現につながることを理解している。 ○ 互いに発表し合い、聴き合うことで良いところを認め、今後の自分の表現活動に生かすようにする。
	5分 一斉	7 授業の振り返りをする。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;">強弱を生かしながら表現を創意工夫すると、曲の雰囲気に変化し、表現したい演奏になる。</div> 8 自己評価をする。 [意志] P1: 曲を演奏するときには、旋律線に気を付けたり、強弱記号を生かしたりして演奏しよう。 P2: パートが分かれている曲では、どちらの旋律を強調して演奏したらよいか、よく考えて演奏しよう。 P3: 他のパートの音をよく聴きながら、リズムを合わせたりして合奏や合唱すると一体感が出て、合唱が楽しくなった。	○ 本時のまとめを学習評価表に記入させる。 ○ 生徒の活動の変容を認めることで、表現活動への学習意欲が高まる。 ※ 学習評価表で、授業を振り返るとともに、学んだことの意味を自覚させることで、次の学習へのつながりを意識させることができる。 研究の視点3
末		⑤メタ認知（レベル3）学んだことを基にして、次の疑問をもったり、適用を図ったりすることができる。 9 次時の予告を聞く。	